

給食だより

令和7年度
2月号



西東京市立保谷第一小学校

2月は一年で最も寒い時期ですが、立春を迎えると春の兆しも感じられます。それと共に、進級や卒業の足音が近づき、新年度への準備が始まろうとする時期です。給食時間中に6年生の教室を巡回していると、「あと何回、小学校の給食が食べられるかな〜。」という会話も聞こえてきます。給食を噛みしめて味わって食べている様子がとても嬉しく、ほほえましい気持ちになります。引き続き、給食室一同、安全第一で心を込めて調理をしまいたいと思います。



2月の献立より



3日 節分献立 恵方ちらし寿司 大豆と小魚の揚げ煮 鬼かまのっぺい汁

心の中で恵方（今年は南南東）を向いて、願い事を思い浮かべながら食べる恵方ちらし寿司です。大豆と小魚の揚げ煮では、鬼の苦手な大豆といわし（かえりじゃこ）を組み合わせました。のっぺい汁には、かわいい鬼型のかまぼこを浮かべます。

6年家庭科 調理実習献立 さつまいもごはん いかのガーリックバターソテー ゆずサラダ 旬野菜たっぷり味噌汁

6年生家庭科「まかせてね 今日の食事」という題材では、児童が自分で栄養バランスのとれた1食分の献立を考えます。担当の先生から「もしかしたら給食で採用されるかも!？」との声かけもあり、各クラスとも張り切って取り組んでいました。旬の食材を使ったり、オリジナリティのある料理で構成しました。実際に調理実習で子供たちが一生懸命に作ったものを、給食でも再現します。*調理実習では、生ものは衛生上取り扱いえないため、はんぺんで代用をしました。

1年の幸福を願う「節分」の行事



2月3日 節分



立春の前日に当たる節分には、古くから、豆まきをしたり、ヒイラギウシ（ヤイカガシ）を玄関に飾ったりして、病気や災難を起こす“鬼（邪気）”を追い払い、1年の無事や幸福を願う風習があります。最近では、「恵方巻き」が店頭をにぎわすようになりましたが、もともと全国的な風習ではなく、江戸時代に大阪の商人が商売繁盛祈願のために行っていた風習が始まりとされています。（*諸説あります）



福豆

大豆をいったもの。豆まきに使うほか、自分の年齢の数、または年齢の数+1個食べて、1年の幸福を願います。大豆の代わりに落花生を使う地域もあります。

よくかんで
食べよう!



2026年の
恵方は
「南南東」

恵方巻き

太巻きすし。その年の歳神様がいますとされる“恵方”を向き、願い事を思い浮かべながら、無言で丸かじりします。



今月の地場野菜

下保谷 本橋和利さんより…はくさい

中町 都築勲さんより…だいこん こまつな

